

問2 次の文章は、帯電した導体球に関する記述である。

真空中で導体球 A 及び B が軽い絶縁体の糸で固定点 O からつり下げられている。真空の誘電率を  $\epsilon_0$  [F/m]、重力加速度を  $g$  [m/s<sup>2</sup>] とする。A 及び B は同じ大きさ と質量  $m$  [kg] をもつ。糸の長さは各導体球の中心点が点 O から距離  $l$  [m] となる長さである。

まず、導体球 A 及び B にそれぞれ電荷  $Q$  [C]、 $3Q$  [C] を与えて帯電させたところ、静電力による (ア) が生じ、図のように A 及び B の中心点間が  $d$  [m] 離れた状態で釣り合った。ただし、導体球の直径は  $d$  に比べて十分に小さいとする。

このとき、個々の導体球において、静電力  $F =$  (イ) [N]、重力  $mg$  [N]、糸の張力  $T$  [N]、の三つの力が釣り合っている。三平方の定理より  $F^2 + (mg)^2 = T^2$  が

成り立ち、張力の方向を考えると  $\frac{F}{T}$  は  $\frac{d}{2l}$  に等しい。これらより  $T$  を消去し整理すると、 $d$  が満たす式として、

$$k \left( \frac{d}{2l} \right)^3 = \sqrt{1 - \left( \frac{d}{2l} \right)^2}$$

$$\frac{F}{T} = \frac{d}{2l}$$

(角ベクトル)  
Fは大き  
+

g, ver

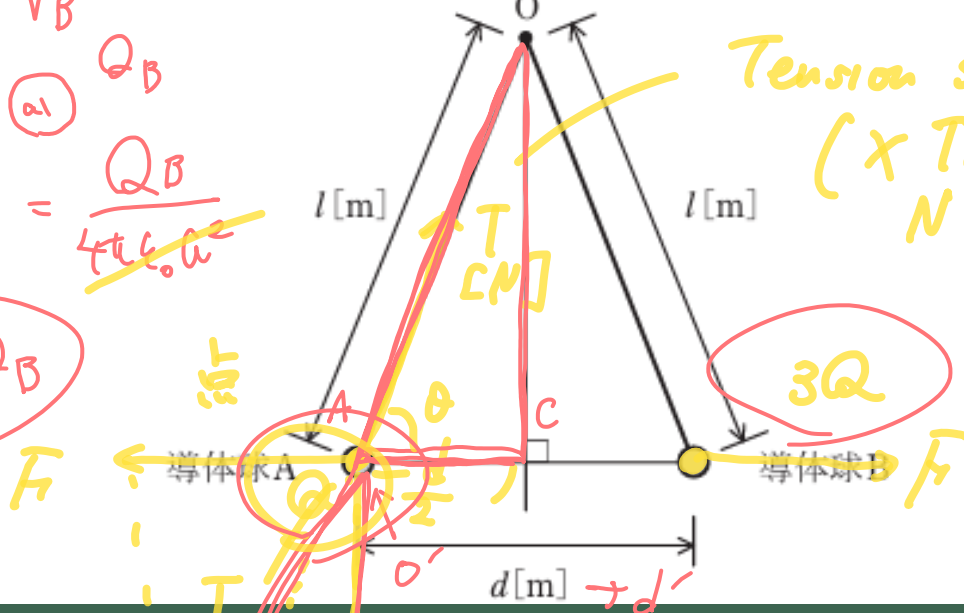
が導かれる。ただし、係数  $k =$  (ウ) である。

次に、A と B とを一旦接触させたところ AB 間で電荷が移動し、同電位となった。そして A と B とが力の釣り合いの位置に戻った。接触前に比べ、距離  $d$  は (エ) した。

$$F' = \frac{2Q \cdot 2Q}{4\pi\epsilon_0 d'^2} = \frac{4Q^2}{4\pi\epsilon_0 d'^2}$$

Tension  $3\epsilon\epsilon$  [N]  
(x Torque)  
Nm

$V_A \equiv V_B$   
 $\frac{Q_A}{4\pi\epsilon_0 a^2} = \frac{Q_B}{4\pi\epsilon_0 a^2}$   
 $2Q_A = Q_B$



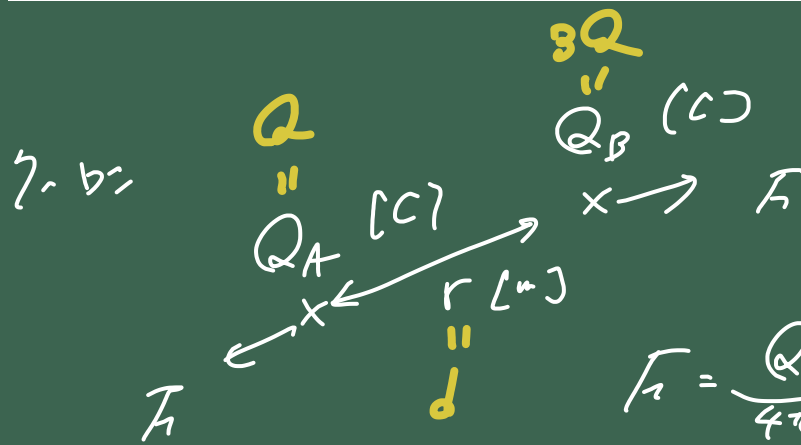
合計  $4Q$   
 $2Q + 2Q$

$\triangle OAC \sim \triangle O'A'C'$

$$F^2 + (mg)^2 = T^2$$

$$\frac{F}{T} = \frac{d}{l}$$

	(ア)	(イ)	(ウ) $\epsilon$	(エ)
(1)	反発力	$\frac{3Q^2}{4\pi\epsilon_0 d^2}$	$\frac{16\pi\epsilon_0 l^2 mg}{3Q^2}$	増加
(2)	吸引力	$\frac{Q^2}{4\pi\epsilon_0 d^2}$	$\frac{4\pi\epsilon_0 l^2 mg}{Q^2}$	増加
(3)	反発力	$\frac{3Q^2}{4\pi\epsilon_0 d^2}$	$\frac{4\pi\epsilon_0 l^2 mg}{Q^2}$	増加
(4)	反発力	$\frac{Q^2}{4\pi\epsilon_0 d^2}$	$\frac{16\pi\epsilon_0 l^2 mg}{3Q^2}$	減少
(5)	吸引力	$\frac{Q^2}{4\pi\epsilon_0 d^2}$	$\frac{4\pi\epsilon_0 l^2 mg}{Q^2}$	減少



$$F = \frac{Q_A Q_B}{4\pi\epsilon_0 r^2} = \frac{3Q^2}{4\pi\epsilon_0 d^2} \quad (1)$$

MKSA 有理化単位系

3:2 for (h)

各件式  $F^2 + (mg)^2 = T^2$

$\frac{F}{T} = \frac{d}{2l}$

$F = \frac{3Q^2}{4\pi\epsilon_0 d^2}$

$k \left(\frac{d}{2l}\right)^3 = \sqrt{1 - \left(\frac{d}{2l}\right)^2}$

$T \propto \left(\frac{2l}{d}\right)^3$

$k = ?$

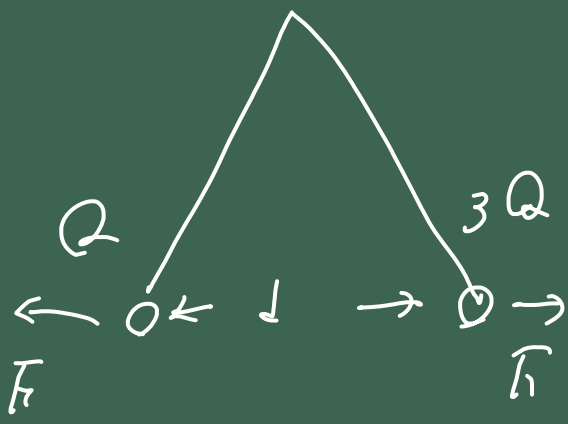
~~$T \propto \left(\frac{d}{2l}\right)^3$~~

$\left(\frac{F}{T}\right)^2 + \left(\frac{mg}{T}\right)^2 = 1$   
 $\left(\frac{d}{2l}\right)^2 + \left(\frac{mg \cdot 16\pi\epsilon_0}{3Q^2} \left(\frac{d}{2l}\right)^3\right)^2 = 1$

$T = F \frac{2l}{d} = \frac{3Q^2}{4\pi\epsilon_0 d^2} \cdot \frac{2l}{d}$   
 $= \frac{3Q^2}{16\pi\epsilon_0} \left(\frac{2l}{d}\right)^3$

$\left(\frac{16\pi\epsilon_0 mg}{3Q^2} \left(\frac{d}{2l}\right)^3\right)^2 = 1 - \left(\frac{d}{2l}\right)^2$   
 $\frac{16\pi\epsilon_0 mg}{3Q^2} \left(\frac{d}{2l}\right)^3 = \sqrt{1 - \left(\frac{d}{2l}\right)^2}$

- 文字式
- 方程式 (一消)
- $\sqrt{\quad}$  平方根

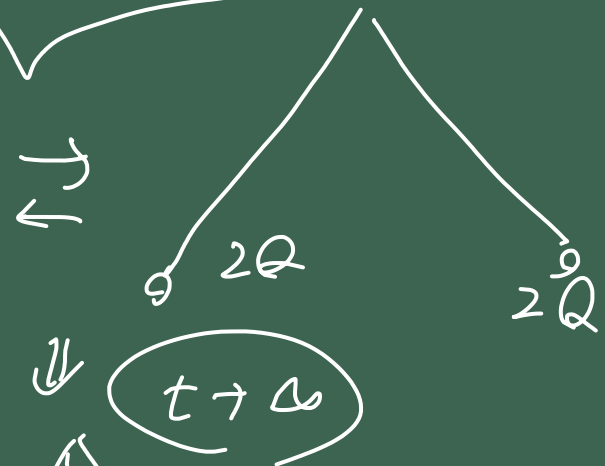
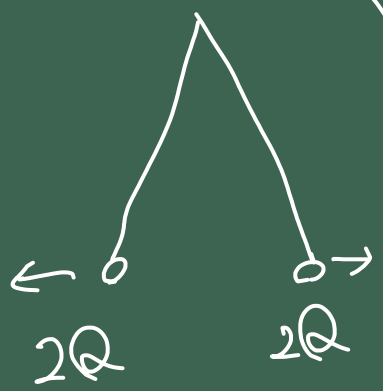
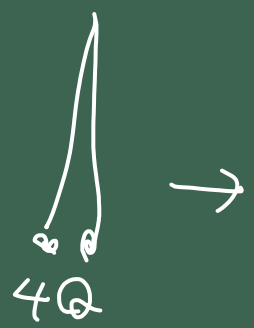


$$\bar{F} = \frac{3Q^2}{4\pi\epsilon_0 d^2}$$

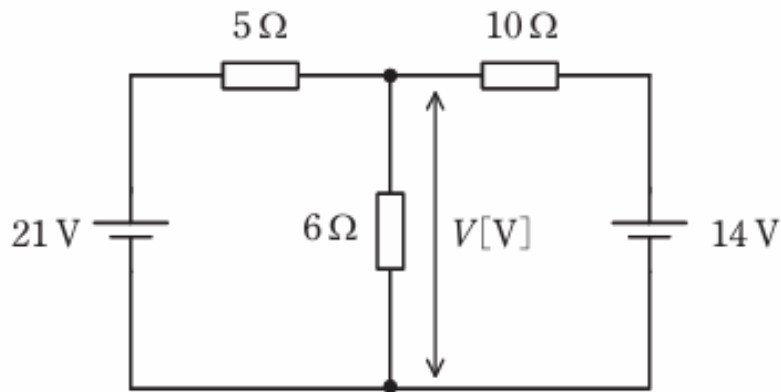
逐条分析

$$\bar{F}' = \frac{4Q^2}{4\pi\epsilon_0 d^2}$$

$\bar{F} < \bar{F}'$   
 ↓  
 方向相反



問6 図のような直流回路において、抵抗  $6\Omega$  の端子間電圧の大きさ  $V$  の値[V]として、正しいものを次の(1)~(5)のうちから一つ選べ。



(1) 2

(2) 5

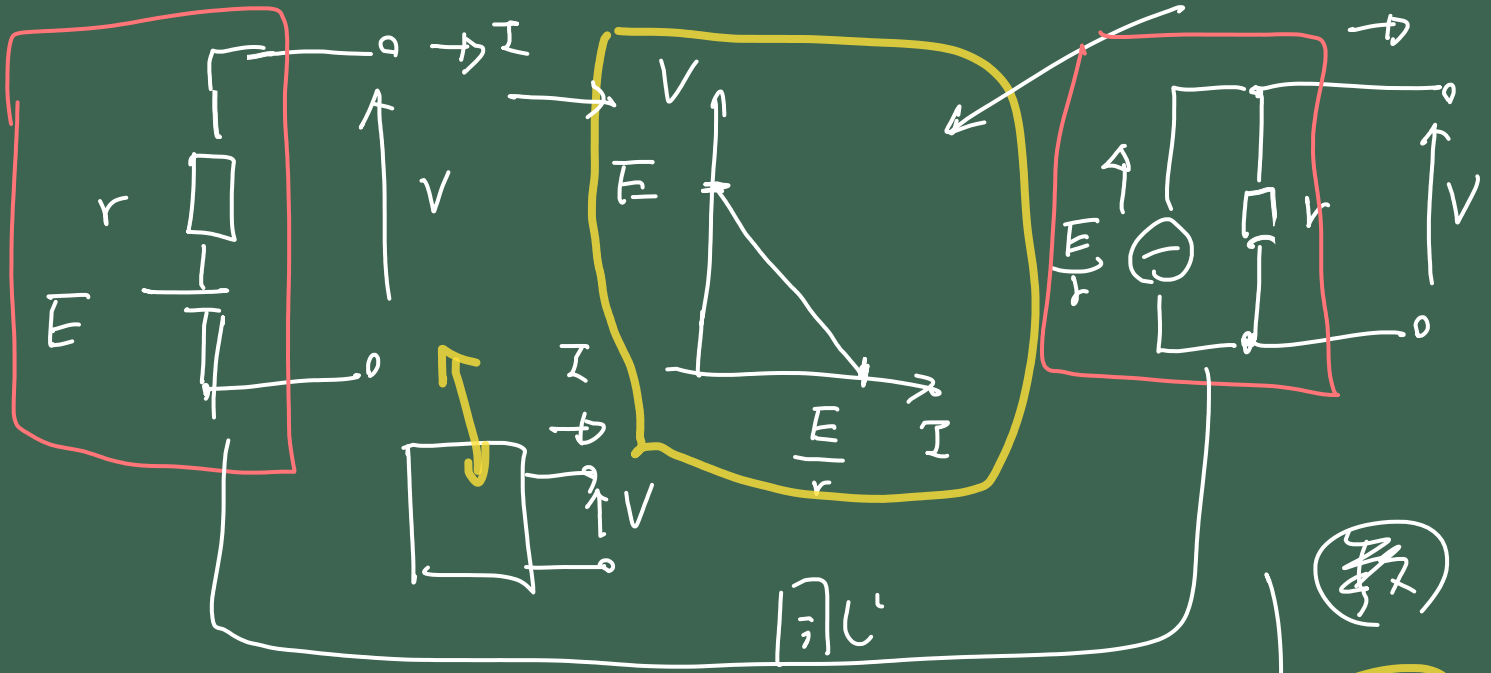
(3) 7

(4) 12

(5) 15

○ 電圧源 電流源の置き換え

$(=12=)$



同じ

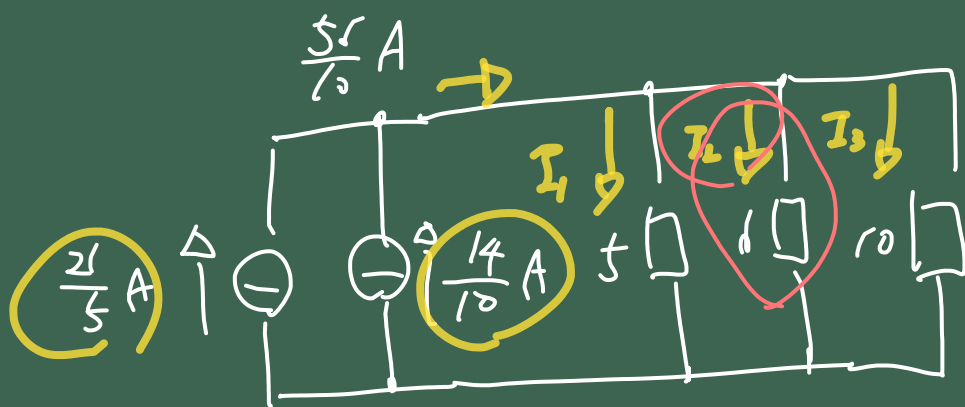
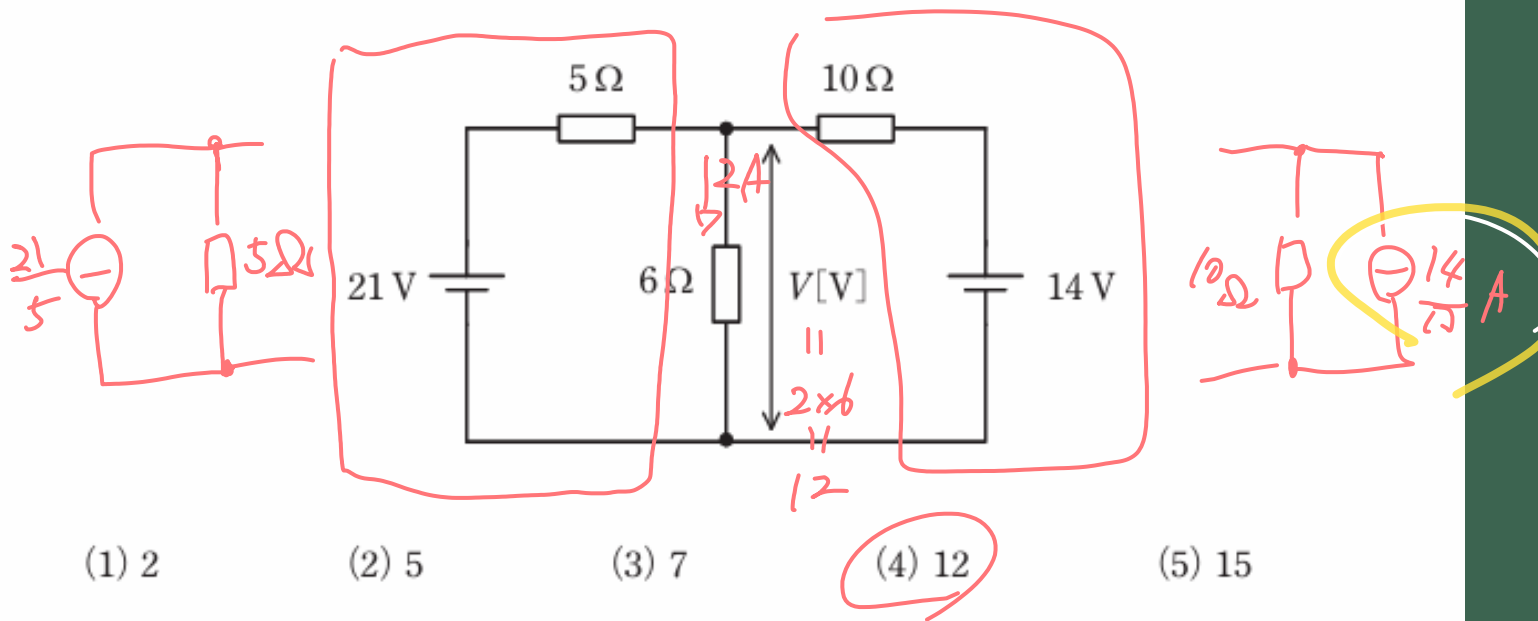
↓  
回路を極小化しよ

(数)

等価

$A=B$

問6 図のような直流回路において、抵抗  $6\Omega$  の端子間電圧の大きさ  $V$  の値[V]として、正しいものを次の(1)~(5)のうちから一つ選べ。



$I_1 + I_2 + I_3 = \frac{1}{5} + \frac{1}{10} + \frac{1}{10}$   
 $\times 30 = 6 + 3 + 3$

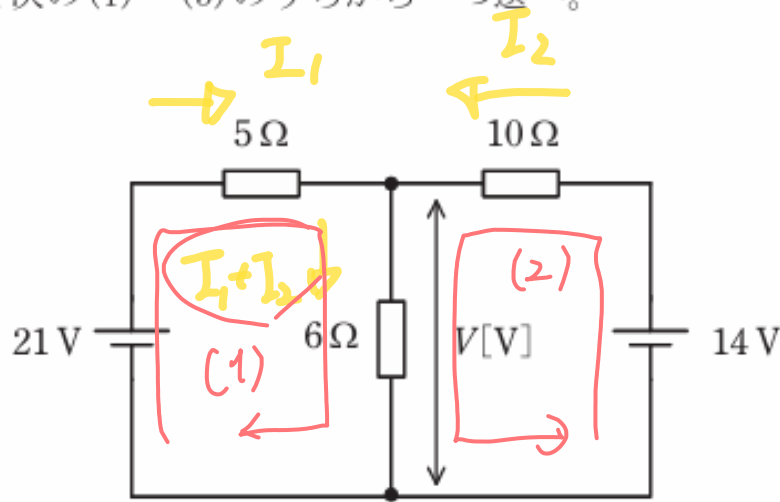
$$\frac{21}{5} + \frac{14}{10} = \frac{42 + 14}{10} = \frac{56}{10} A$$

$$I_2 = \frac{5}{5 + 3 + 3} \cdot \frac{56}{10}$$

$$= \frac{5}{14} \cdot \frac{56}{10} = 2 A$$

# キルヒホッフ

問6 図のような直流回路において、抵抗  $6\Omega$  の端子間電圧の大きさ  $V$  の値[V]として、正しいものを次の(1)~(5)のうちから一つ選べ。



(1) 2

(2) 5

(3) 7

(4) 12

(5) 15

(1)  $21 = +5I_1 + 6(I_1 + I_2)$

(2)  $14 = +10I_2 + 6(I_1 + I_2)$

電圧の向きが逆!

(2電)

数値

$$\begin{aligned} 21 &= 11I_1 + 6I_2 && \times 8 && 168 = 88I_1 + 48I_2 \\ 14 &= 6I_1 + 16I_2 && \times 3 && 42 = 18I_1 + 48I_2 \end{aligned}$$

約分消 (2を約分)

$$I_1 = \frac{126}{90} = \frac{63}{35}$$

$$126 = 90I_1 + 42 = \frac{21}{6 \times 35} = \frac{7}{35}$$

$$I_2 = \frac{1}{6} (21 - 11I_1) = \frac{1}{6} (21 - \frac{693}{35}) = \frac{1}{6} \frac{735 - 693}{35}$$

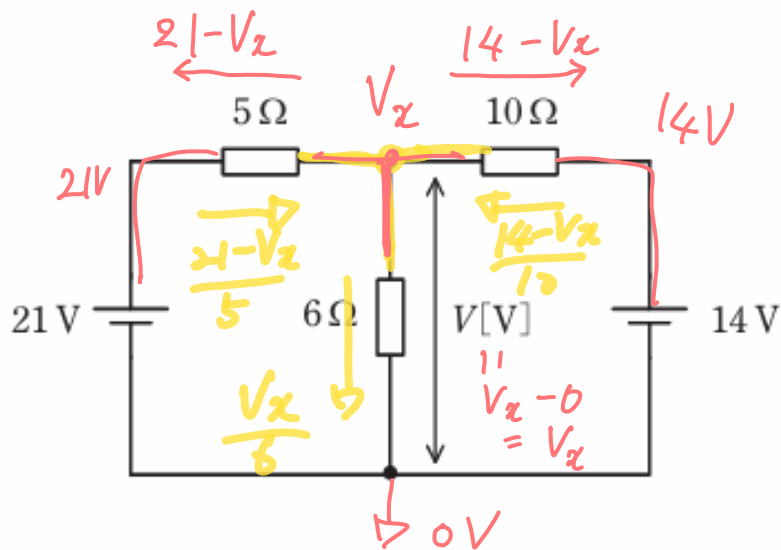
$21 \times 35 = 735$

$$I_1 + I_2 = \frac{63}{35} + \frac{7}{35} = \frac{70}{35} = 2 \text{ [A]} \quad V = 2 \times 6 = 12 \text{ [V]}$$

→

# 節点電位法

問6 図のような直流回路において、抵抗  $6\Omega$  の端子間電圧の大きさ  $V$  の値[V]として、正しいものを次の(1)~(5)のうちから一つ選べ。



(1) 2

(2) 5

(3) 7

(4) 12

(5) 15

$$\frac{21-V_x}{5} + \frac{14-V_x}{10} = \frac{V_x}{6} \quad \leftarrow V_x \text{ の } \uparrow \text{-} \downarrow \text{ 向き}$$

x30

$$126 - 6V_x + 42 - 3V_x = 5V_x$$

$$168 = 14V_x$$

$$V_x = \underline{\underline{12 \text{ [V]}}}$$

数





















